



だより



R7.4.28 Vol.4

霰(あられ)が…

先日、子供たちの登校中に霰が急に降り出した日がありました。いつも玄関前で子供たちを出迎えている教頭が、まだ学校に到着していない登校班があることを確認すると、真網代方面に向かって一目散に駆け出しました。(100m10秒を切っていたのでは?)登校してくる子供たちに「大丈夫?」と声をかけ、安全確認をしていました。急なことだったので教頭は傘を持っていません。(傘に入れなくちゃと追いかけていたのですが、教頭、速すぎて…)

すると最後に登校してきた登校班の班長、6年の女の子が「入ってください。」と自分のさしている傘の中に教頭を入れていました。教頭のとっさの行動も大変頼もしく思えましたし、その状況を見て傘に入れてくれる子供の行動もとても微笑ましく感じました。肌寒い朝でしたが、心はとっても温かくなった朝でした。

何かブラボー!!



一言

昨年度の途中から、学校と家庭、地域がつながる手段の一つになればいいなと、学校から出す全ての便りに返信欄を設けました。

今年度、この便りに一通の返信をいただきました。「便り、楽しみにしています。気持ちの良い挨拶を家でも目指していきます。」そんな内容でした。

一言もらうだけで、気持ちがとても前向きになります。前回の便りに書いたことですが、「ナイスラン!あとひと踏ん張りですよ!」その一言で、疲れ切った気持ちが「まだがんばれる!」と奮い立ちます。

力をもらうだけでなく「誰かの力になれる!」そんな便りにしたいです。そして子供たちへの一言の言葉がけも子供たちが前向きになれる言葉を大切にしていきたいと思います。



四方山話真穴 ver2. 其の四(ドラえもんとアンパンマン)

給食時間、お昼の放送でBGMがかかります。先日、ドラえもんの歌が流れていました。『心の中 いつもいつも描いてる～ 夢をのせた自分だけの世界地図～♪』職員室にいた先生に「この歌、いいよなあ。今聞くと涙が出そうになる時がある。」そんな話をふりました。「そうですね。いい歌ですね。そういえばアンパンマンの歌もいいですね～。」そんな返事が返ってきました。今、朝の連続ドラマで放映されていますよね。その作者、やなせたかしさんの生涯。「何のために生まれて、何をして生きるのか、答えられないなんてそんなのは嫌だ♪」そんな歌詞です。やなせたかしさんは大正時代に生まれ、太平洋戦争に出征しました。そして弟さんをその戦争で亡くしています。そんな経験をしたやなせさんが作った歌です。それを知ると、同じ歌を聞いても、これまでとはまた違った感情が生まれませんか?

物事を知るとということは、考えの幅が広がること、そして感情の引き出しが増えることだと思います。推察ではありますが、やなせさんの戦争や身内の戦死という経験がアンパンマンを生み、それを通して、愛や正義ややさしさが何かということ伝えてくれたのではないかと思います。

のび太はドラえもんと付き合いを通して少し大人になりました。(最終回の内容がどうだったのか、記憶がさだかではないのですが…。ジャイアンに負けなかったような…)常にわるさやいたずらばかりするバイキンマン!いつもアンパンマンに懲らしめられていますね。(私、いたずらばかりするのでその昔、同僚に「バイキンマンみたい!」と言われたことがあります…汗。)でもアンパンマンは決してバイキンマンを憎んでいません。罪を憎んで人を憎まず!正義ややさしさのあるべき形を教えてくれている気がします。子供たちにいつまでも人気のドラえもんやアンパンマン、私たち大人も学ぶところはたくさんあるのではないのでしょうか。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。